

# けんしん

## 受診上の注意事項



### 受診前に必ずお読みください

1~6

**重要** 受診上の注意事項 [受診できない方(禁忌事項に該当)] 1ページ

特定健診・健康診査	2ページ	乳がん検診	5ページ
胃がん検診	3ページ	子宮頸がん検診	6ページ
肺がん検診	4ページ	骨粗しょう症検診	6ページ
大腸がん検診	4ページ	腹部超音波検査	6ページ
前立腺がん検診	4ページ	肝炎ウイルス検査	6ページ

お住まいの市町村によって実施する項目が異なります。

### 「精密検査」の結果を受け取った方へ

7

### 問診票の記入方法

8

### がん検診受診のススメ・がん予防のおはなし

9~10

健診受診上のご注意など

受付時間 8:30~17:00(月~金)

各種お問い合わせ先

☎ 0942-35-8195

【けんしん受診予定の方へ】

悪天候や感染症のまん延等による健康診断の実施可否は自治体のご判断となります。  
受診予定の方はお住まいの自治体の発表をご確認ください。



# 受診上の注意事項 受診できない方(禁忌事項に該当)

以下の「受診できない方」に該当する場合、けんしんを受診できません。  
「ご留意いただく事項」「医療機関での受診をおすすめする方」に該当する方は問診時にお申し出ください。

	受診できない方(禁忌事項に該当)	ご留意いただく事項 医療機関での受診をおすすめする方
特定健診	妊産婦の方	
胃がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中または妊娠の可能性がある方</li> <li>・4日以上便秘が続いている方</li> <li>・心不全や腎疾患(透析など)で水分制限がある方</li> <li>・過去1年以内にお腹や整形外科の手術(脊椎手術など)を受けた方</li> <li>・過去にバリウム誤嚥(ごえん)を起こしたことがある方</li> <li>・潰瘍性大腸炎やクローン病、腸閉塞の既往があり主治医の許可を得ていない方</li> <li>・胃全摘の方</li> <li>・バリウムアレルギーの既往がある方</li> <li>・3か月以内に胃や大腸のポリープを内視鏡で切除した方</li> <li>・人工肛門の方</li> <li>・体重が120kg以上ある方</li> <li>・当日の血圧が収縮期180mmHg以上、または拡張期110mmHg以上ある方</li> <li>・自力で立ってられない、撮影台の手すりをつかむことのできない方</li> <li>・インスリンポンプや持続血糖測定器を使用している方で、撮影時にご自身で取り外しができない方※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の体調がすぐれない方</li> <li>・飲食時によくむせる方</li> <li>・バリウム検査が初めての方で、アレルギーがひどい方</li> </ul>
肺がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中または妊娠している可能性のある方</li> <li>・インスリンポンプや持続血糖測定器を使用している方で、撮影時にご自身で取り外しができない方※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力歩行が困難な方</li> <li>・ペースメーカー、またはICD(植え込み型除細動器)をご使用の方は、近辺の肺内病変が分かりにくい場合があります。</li> <li>・最近6か月以内に血痰があった方は、医療機関での受診をおすすめします。</li> </ul>
大腸がん検診	生理中の方	血便・便が細くなる、便秘や下痢を繰り返す方は医療機関受診をおすすめします
乳がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中または妊娠している可能性のある方</li> <li>・豊胸している方(自己脂肪注入やコラーゲン注射などの施術を含む)</li> <li>・ペースメーカー、脳内シャントカテーテル、埋め込み型留置カテーテルを装着している方</li> <li>・インスリンポンプや持続血糖測定器を使用している方で、撮影時にご自身で取り外しができない方※</li> </ul>	しこり、乳頭からの分泌物等の自覚症状がある方は医療機関受診をおすすめします
子宮頸がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中または妊娠している可能性のある方</li> <li>・生理中の方</li> </ul> <p>※再検査(検体不適)について 採取した細胞量が少ないと検体不適判定となり、再検査が必要な場合があります。生理中は採取した細胞が血液でおおわれ、再検査の可能性が非常に高くなるため、受診を避けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体重が110kg以上ある方</li> <li>・子宮内腔装置を使用している方(リング、ミレーナなど)</li> </ul>	子宮の手術を受けられた方、子宮の病気をされた方は、受診について主治医にご相談ください。
骨粗しょう症検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠中または妊娠している可能性のある方</li> <li>・インスリンポンプや持続血糖測定器を使用している方で、撮影時にご自身で取り外しができない方※</li> </ul>	

※インスリンポンプ、持続血糖測定器に関する詳しい説明はこちら▶



# 特定健診・健康診査 受診上の注意

問診(既往歴、服薬歴など)・診察・身体計測(身長・体重・腹囲)・血圧測定・尿検査・血液検査(肝機能・血糖・脂質・腎機能・尿酸)【詳細健診:眼底・貧血・心電図(医師が必要と判断した場合に行う)】

※お住まいの自治体・加入の保険者によって異なる場合があります。

## 前日の注意事項

- ・予約時間より10時間の絶食が望ましいとされています。水以外の飲食物(アメ・ガムを含む)は摂らないようにしましょう。
- ・がん検診、その他の検査を同時に受診する方は、各検診の注意事項も併せてご確認ください。
- ・飲酒や激しい運動は控え、十分な睡眠をとり体調を整えましょう。

## 当日の注意事項

体調	体調不良の方は受診をお控えください。
服薬	毎朝服用する薬・・・主治医に相談し指示に従ってください。服用可の場合は水で服用してください。 糖尿病の薬やインスリン注射・・・絶食状態で使用すると危険です。自己判断せず、必ず主治医に相談してください。
服装所持品	腕時計、ネックレス、アクセサリー、湿布、カイロは事前に外してください。 貴重品は会場へお持ちにならないようお願いします。

## 検査ごとの注意事項

全員	尿検査	採尿容器が同封されている方は、当日朝一番の尿を採り、健診会場へお持ちください。
	腹囲測定	お腹周りを直に測定します。ワンピース等の服装は検査に不向きです。
詳細健診	心電図検査	胸の部分をおおきく開け、胸、手首、足首に電極を付け検査します。 ストッキングは事前に脱いでください。
	眼底検査	裸眼で検査します。コンタクトレンズ使用の方は事前に外していただきます。



## 採血を安全に受けていただくために(採血合併症について)

採血は安全性の高い手技ですが、まれに合併症を伴うことがあります。当機構では、翼状針の使用や圧縮包帯による止血など、安全に配慮した方法を取り入れています。なお、採血による合併症が生じた場合は、ご本人の健康保険を用いた診療となります。

### 神経損傷

痛みやしびれが主な症状で、1万回から10万回の採血に1回程度起こるとされています。1週間以内、長くても1~3か月位で症状は消失すると言われています。

### 皮下出血、止血困難

採血した血管から血液が漏れ出し、皮下に出血が起こります。通常皮下出血は時間を要しますが自然に吸収されます。痛みが強い場合、冷湿布や鎮痛剤を使用します。

### アレルギー

最も多いのが消毒薬アルコールに対するアレルギーです。アルコールアレルギーのある方は別の消毒薬を使用しますので、お声掛けください。

### 迷走神経反射

採血中あるいは、採血後一時的に血圧が低下し、気分不良、冷や汗、失神などが生じることがあります。1万回に1回程度です。臥床採血用のベッドを用意しておりますので、お声掛けください。

## 健(検)診当日お持ちいただくもの

### 特定健診やがん検診を受診する方

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <input type="checkbox"/> 「マイナ保険証」または「健康保険資格確認書」           | <input type="checkbox"/> 健(検)診費用<br>おつりのないようお願いします。 | <input type="checkbox"/> 採便容器<br>お申し込みの方のみ |
| <input type="checkbox"/> 健康診断のご案内<br>同意のチェック(2カ所)をお願いします。 | <input type="checkbox"/> 受診券・採尿容器<br>特定健診をお申込みの方のみ  | <input type="checkbox"/> お薬手帳<br>お持ちの方のみ   |
| <input type="checkbox"/> 問診票                              | <input type="checkbox"/> クーポン券<br>対象の方のみ            | ※お住まいの自治体によりお持ちいただくものが異なる場合がございます。         |

# がん検診など受診上の注意

## 胃がん検診

### 検査方法 問診・胃部X線撮影(バリウム)

胃を膨らませる炭酸ガスを発生させる発泡剤やバリウムを飲んで、胃の形や粘膜の状態をX線写真で確認する検査です。

検査時には身体を仰向けやうつ伏せ、左右に回転させて撮影します。



50歳を過ぎたら、2年に1度は定期的に受診しましょう。

胃がんの発生要因にはピロリ菌の感染と喫煙があります。その他に塩分の摂りすぎが胃がん発症の危険性を高めます。

### 前日の注意事項

- ・夜9時以降は絶食し、水のみ夜11時まで飲めます。
- ・夕食は消化の悪いもの(肉類・昆布・その他固いもの)は召し上がらないでください。

### 当日の注意事項

- ・絶飲食で受診してください。
- ・水は検査開始の2時間前までに200ml以内であれば飲めます。

服薬	毎朝服用する薬・・・主治医に相談し指示に従ってください。服用可の場合は200ml以内の水で服用してください。
	糖尿病の薬やインスリン注射・・・絶食状態で使用すると危険です。自己判断せず、必ず主治医に相談してください。

### 望ましい服装(検査着のご準備はあります)

- ・無地のTシャツ、ウエストがゴムのズボンであれば検査がスムーズです。
- ・金具やプリントのある服では検査できません。
- ・ブラトップは金具類がなく、体の締め付けがないものであれば着用可能です。

### 下剤について

- ・検査終了後、下剤と水をお渡しします。下剤は早めに服薬してください。
- ・便秘気味の方や過去にバリウム便が出にくかった方は、下剤を多めにお渡ししています。当日看護師にご相談ください。
- ・検査当日は水分を多めに摂ってください。(アルコールやカフェインなどの利尿作用があるものはお控えください。)

### 授乳中の方

授乳中でも服薬できる下剤をご用意しております。スタッフにご相談ください。

### 起こりうる事故(偶発症)

※胃部X線検査では以下のような偶発症が報告されています。ご確認の上、受診してください。

	偶発症	頻度
誤嚥性肺炎 ごえん	バリウムが気管支に入り炎症が起きること 70～74歳:0.022%、75～79歳:0.042%、80歳以上:0.10%	0.031%
消化管穿孔	バリウムが腸につまり、腸に穴があくこと	0.000065%
過敏症状	しびれ、呼吸困難、発疹や意識障害など まれに血圧の急激な低下(アナフィラキシー)が起こること	0.00058%
腸閉塞	バリウムが腸につまり、腹痛などが起こること	0.000097%

## 肺がん検診

### 検査方法 問診・胸部X線撮影

**胸部X線検査** X線で肺全体を撮影します。  
肺に病気が疑われる影があるかを調べます。

**喀痰細胞診** 長期間たばこを吸っているなど肺がんのリスク要因があり、必要と判断された場合に行います。  
痰を採取して、がん細胞がないかを調べます。



肺、縦隔(両方の肺と心臓の間)、胸郭(肋骨)、胸膜及び心臓の異常を調べる検査です。

40歳以上の方は年に1回定期的に受診しましょう。

65歳以上の方は、法律で年1回の胸部X線撮影が定められています。

### 望ましい服装(検査着のご準備はあります)

- ・無地のTシャツ、ウエストがゴムのズボンであれば検査がスムーズです。
- ・金具やプリントのある服では検査できません。
- ・ブラトップは金具類がなく、体の締め付けがないものであれば着用可能です。

## 大腸がん検診

### 検査方法 問診・便潜血反応検査(2回法)

検査日を含め7日以内に2回採便し、検診日に提出する検査です。  
できるだけ提出日に近い日で採便することが推奨されています。  
採便方法は検査キット内の説明書をお読みください。

便潜血検査は大腸からの微量な出血を検出します。

40歳から1年に1回の「便潜血検査」を行うことで、大腸がんで死亡する可能性が60～80%減ります。

1年に1回定期的に受診しましょう。

### 採便時の注意

- ・採便後の検査キットは、便中の血液成分の変性を防ぐために冷蔵庫や保冷バックなどで保管してください。
- ・痔による出血がある場合、主治医に相談してください。
- ・2日間採便する場合、別日の便が望ましいですがやむを得ない場合には、別の時間で2本採便してください。  
1本でも検査可能ですが、2本提出した方が「がんの発見率」が上がります。

## 前立腺がん検診

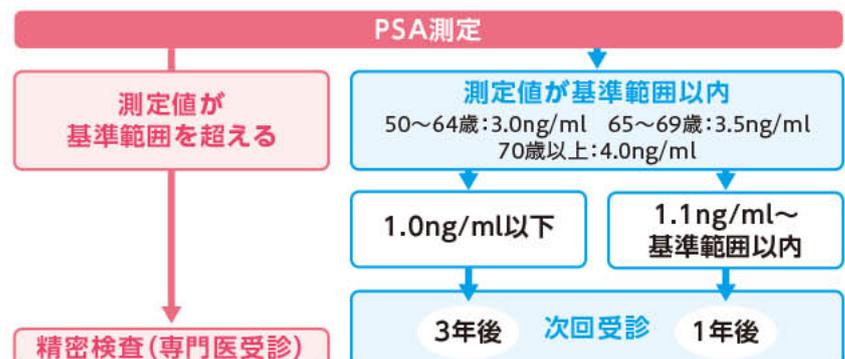
### 検査方法 血液検査(PSA:腫瘍マーカー)

※飲食による影響はありません。

・採血に関する注意事項は2ページをご参照ください。

PSA値は前立腺がんの腫瘍マーカーです。  
前立腺がんだけでなく、前立腺肥大症や前立腺炎などがん以外の病気で上昇することもあります。

前立腺肥大症や男性型脱毛症で治療中の方は、PSA値が低下する場合がありますので、前立腺がん検診をご希望の方は、主治医へのご相談をお勧めします。



# 乳がん検診

## 検査方法 問診・乳房X線撮影(40歳代:2方向、50歳以上:1方向)

乳房を挟み、圧迫して撮影しますので人によっては痛みを伴う場合があります。  
乳房を全摘出した方で、主治医の経過観察が終わった方は片方のみ撮影可能です。  
撮影は女性技師が行います。

早期発見のためには、40歳から2年に1回の定期的なマンモグラフィ検査が有効です。

種類・特徴	マンモグラフィ	超音波(エコー)検査
	<p>X線撮影装置を使用して、しこりや石灰化を写します。乳房を薄く引き延ばすことで、少ない放射線でしこりの影をはっきり写すことができます。</p> 	<p>超音波をあてて、内部からの反射を画面に写しだす検査です。</p> 
検査時間	3～5分程度	10分程度
メリット	早期乳がんを発見できます。全体の把握ができます。	痛みはない。乳腺の多い方、妊娠中の方でも可能。
デメリット	乳腺の多い方の場合、乳がんを発見しにくいこともあります。人によって痛みを伴います。	乳がんの石灰化を写しだすことが難しく、診断には医師や検査技師の技術が関係します。 ※乳がん検診における死亡率減少効果が科学的に証明されていないため、現在40歳代については研究が進められています。

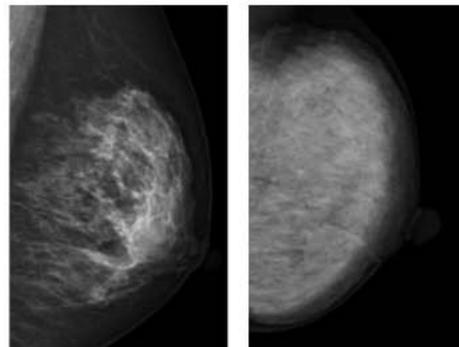
## 授乳中・断乳後のマンモグラフィ検査について

授乳中または断乳後の方もマンモグラフィをご受診いただけます。ただし、以下の理由から福岡県下各自治体や健康保険組合により受診できないと定められている場合があります。予め、ご了承ください。

- ・授乳中・断乳後は乳腺が発達しており、乳腺内に乳汁がたまっているため正確な診断が困難となります。通常、マンモグラフィの画像は、乳腺、腫瘤(しこり)ともに白く写りますので、腫瘤があってもわかりにくいことがあり、検査の精度が下がります。(右画像参照)
- ・異常があるのに「異常なし」と判定されたり、異常がないのに「要精密検査」となる可能性が高くなります。
- ・乳房圧迫の際、通常と比べ痛みを強く感じる可能性があります。
- ・授乳中の方は、撮影機器で強く圧迫するため、母乳が出る可能性があります。

非授乳期

授乳期



## ブレスト・アウェアネスを始めましょう!

「ブレスト・アウェアネス」とは、「乳房を意識する生活習慣」のこと。女性自身が乳房の状態に日頃から関心を持ち、乳房の変化を感じたら、「すぐに医師に相談する」という正しい受診行動を身につけましょう。

### 1 普段の乳房の状態を知る

着替えや入浴、シャワーなどの際に、乳房を意識する習慣をつけましょう。しこりを探す(自己触診)は必要ありません。乳房への意識を生活習慣に取り入れましょう。

乳房を見て、触って、感じる

### 2 乳房の変化に気を付ける

乳房のしこりや乳頭からの分泌物、乳頭や乳輪の皮膚の変化などに気をつけましょう。いつもと変わりがないかな?という気持ちでチェックしましょう。

気をつけなければいけない乳房の変化を知りましょう

## 4つのポイント

### 3 変化に気づいたらすぐに医師へ相談

乳房の変化が、すべて乳がんの症状とは限りませんが、気が付いた乳房の変化が早期乳がんの症状の可能性もあります。なるべく早く、医師に相談しましょう。

乳房の変化に気づいたらすぐに医師へ

### 4 40歳になったら2年に1回乳がん検診

乳がん検診の目的は、乳がんで亡くなる女性を減らすことです。症状がある乳がんでも、すぐに医師に相談することで治る可能性があります。

40歳になったら検診に。マンモグラフィを

## 子宮頸がん検診

### 検査方法 問診・子宮頸部細胞診

子宮の入り口付近(頸部)の細胞を採取し顕微鏡で調べる検査です。

子宮がん検診は「子宮頸がん」「子宮体がん」がありますが、今回の検査は「頸がん検診」です。子宮内部の異常(子宮筋腫、子宮内膜症、子宮体がん)や卵巣の異常を調べる検査ではありません。子宮頸がんや前がん病変の発見には、2年に1回継続的に受診することが重要です。

### 当日の注意事項

- ・細胞を採取する際、出血することがあります。びらんや頸管ポリープがある方は出血の可能性が高くなります。5日以上出血が続くようでしたら、当機構にご連絡いただくかお近くの婦人科へご相談ください。

### 望ましい服装(検査着やタオルなどのご準備はありません)

- ・ズボンやストッキング、パンツは脱いで検査を行います。
- ・着脱しやすい服装でお越しください。

## 骨粗しょう症検診

### 検査方法 問診・前腕部分のX線撮影

前腕(手首～肘)の部分にX線を照射し、骨の密度を測定します。

骨粗しょう症は、骨がもろくなり骨折しやすくなる病気です。特に女性に多く更年期以降、年齢が高くなるほど増える傾向にあります。

## 腹部超音波検査

### 検査方法 腹部超音波検査(エコー検査)

肝臓・胆のう・胆管・腎臓・膵臓・腹部大動脈などの異常を超音波をあて調べる検査です。

人の耳に聞こえない高い周波数の音波(超音波)を利用して検査を行います。超音波の伝わりをよくするために、検査部位と機器を密着させるゼリーを塗ります。検査時間はおおむね10分程度です。

### 前日の注意事項

- ・夜9時以降は絶食し、水のみ夜11時まで飲めます。
- ・夕食は消化の悪いもの(肉類・昆布・その他固いもの)は召し上がらないでください。

### 当日の注意事項

- ・絶飲食で受診してください。
- ・水は検査開始の2時間前までに200ml以内であれば飲めます。

服薬

毎朝服用する薬・・・主治医に相談し指示に従ってください。服用可の場合は200ml以内の水で服用してください。  
糖尿病の薬や  
インスリン注射・・・絶食状態で使用すると危険です。自己判断せず、必ず主治医に相談してください。

## 肝炎ウイルス検査(B型肝炎・C型肝炎)

### 検査方法 血液検査(HBs抗原、HCV抗体) ※飲食による影響はありません。

B型肝炎ウイルス(HBs抗原)と、C型肝炎ウイルス(HCV抗体)の感染有無を血液で調べる検査です。

一生に一度受ければ十分とされ、結果は陰性か陽性で判定されます。陽性は感染の可能性があるため精密検査が必要です。感染が確認された場合には、医療機関での精密検査や治療につなげることが重要です。

ご不明な点がございましたら、予約先にお問い合わせいただくか、  
二次元コードを読み取ってご確認ください。

ふくおか公衆衛生推進HP ▶



# 「精密検査」の結果を受け取った方へ

精密検査＝病気と決まったわけではなく、健診で見つかった『サイン』が本当に異常なのか、問題ないものなのかを詳しく確認するための検査です。

精密検査として行う検査内容は、受診する医療機関の医師の診断によります。「健診結果」と「紹介状」と「マイナ保険証または健康保険資格確認書」を持参し、専門の医療機関を早めに受診してください。

## 精密検査で行う検査の一例

### 胃がん検診 専門医療機関 消化器内科

胃内視鏡検査  
(胃カメラ)

口または鼻から胃の中に内視鏡を入れ、食道、胃、十二指腸を直接観察する検査です。胃炎などの胃の病気が疑われる部分の場所やその広がり、深さを直接観察することができ、病変をつまんで取り、悪性かどうかを調べる場合(生検)もあります。

### 肺がん検診 専門医療機関 呼吸器内科

CT検査

コンピューター断層撮影のことで体内を輪切り状態にしてX線撮影します。撮影時間は数分程度です。短時間でほとんど苦痛なく検査できるうえに、画像の解像度が高く、多くの情報を得ることができます。肺がんだけでなく、肺結核、気管支拡張症、気胸、胸部大動脈瘤、心臓疾患などの病変が、小さなものまで発見できます。

気管支鏡

口または鼻から気管支に挿入する機器です。病変が疑われた部位を直接観察し、組織や細胞を採取する検査です。

### 大腸がん検診 専門医療機関 消化器内科

全大腸内視鏡検査

肛門から内視鏡を挿入して大腸内を詳細に調べます。検査は30分程度で終わります。ポリープ等の病変が見つければ、病変の一部を採取して悪性の有無を調べることもあります。

大腸CT検査

肛門から炭酸ガスを注入し大腸を拡張させX線で撮影し、得られた画像をもとに腸の病変やポリープを見つける新しい検査です。

注腸X線検査

肛門からバリウムと空気を注入し、X線写真を撮ります。がんやポリープなどの正確な位置や大きさがわかります。

第一選択は全大腸内視鏡検査ですが、困難な場合はS状結腸内視鏡検査と注腸X線検査の併用となります。

### 前立腺がん検診 専門医療機関 泌尿器科

直腸診

医師が肛門から指を挿入し、前立腺の硬さや表面のでこぼこ、大きさなどを調べます。

経直腸超音波検査

超音波を発する器具を肛門から挿入して、前立腺の大きさや形等の状態を調べる検査です。

### 子宮頸がん検診 専門医療機関 婦人科

コルポ診

子宮頸部を望遠鏡のような機械(コルポスコープ)で拡大して観察する検査です。同時に実施される可能性のある検査として、HPV検査や細胞診、組織診などがあります。

HPV検査

細胞診と同時に子宮頸部の表面をブラシで擦り、採取した細胞がHPVに感染していないかを調べます。

### 乳がん検診 専門医療機関 乳腺外科

マンモグラフィ

病変部位の追加撮影などをします。

超音波(エコー)検査

超音波検査では、乳房内の病変の有無、しこりの性状や大きさ、わきの下など周囲のリンパ節への転移の有無を調べます。

MRI検査

MRI装置で乳房を撮影し、病変の有無、形、大きさを確認します。

マンモトーム生検

専用の器具を用いて、病変の一部を採取し組織を調べます。

病理検査  
(細胞診・組織診・摘出生検)

乳がんの疑いがある場合、病変の一部を採取して顕微鏡で調べ、確定診断するための検査を病理検査といいます。

# 問診票の記入方法

あらかじめ記入し、会場へ持参してください。

## 受診する内容に合わせて、必要な問診票が同封されています。

- ① すべての問診票等の氏名・フリガナ・性別・生年月日などの間違いがないかご確認ください。
- ① 鉛筆 または シャープペンシル で記入してください。
- ① 以下の記入例を参考に、□の枠内に収まるように記入してください。

## 問診票の記入例

該当する  に  をご記入ください

本人既往歴 (選択は8つまで)					自覚症状 (選択は6つまで)			特になし		
治療中	現在主治医のもとで薬をもらっている				<input type="checkbox"/>	血痰	<input type="checkbox"/>	息切れ	<input type="checkbox"/>	咳
経過観察	現在主治医のもとで検査を定期的に行っている(薬をもらっていない)				<input type="checkbox"/>	痰	<input type="checkbox"/>	胸痛	<input type="checkbox"/>	脈の乱れ
中断・放置 以前あり	過去に病気にかかり治療したことがある (現在は治療を行っていない)				<input checked="" type="checkbox"/>	動悸	<input type="checkbox"/>	胸やけ	<input type="checkbox"/>	腹痛
治癒	過去に病気にかかり治癒した				<input type="checkbox"/>	吐き気	<input type="checkbox"/>	食欲不振	<input checked="" type="checkbox"/>	胃痛
<input type="checkbox"/> 既往なし	治療中	経過観察	中断・放置 以前あり	治癒	<input type="checkbox"/>	便秘	<input checked="" type="checkbox"/>	下痢	<input type="checkbox"/>	血便
がん (部位 )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	尿が出にくい	<input type="checkbox"/>	排尿回数が多い	<input type="checkbox"/>	血尿
高血圧	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	めまい・立ち眩み	<input type="checkbox"/>	不眠	<input type="checkbox"/>	頭痛
糖尿病	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	背部痛	<input type="checkbox"/>	腰痛	<input checked="" type="checkbox"/>	肩こり
脂質異常症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	疲れやすい	<input type="checkbox"/>	その他		
貧血	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		家族歴 血縁者(父母・兄弟姉妹)に下記の方がいればご記入ください(選択は7つまで)				
痛風・高尿酸血症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 該当なし	<input type="checkbox"/> 高血圧	<input type="checkbox"/> 脂質異常症	<input type="checkbox"/> 糖尿病	
脳血管疾患	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 脳卒中	<input checked="" type="checkbox"/> 狭心症・心筋梗塞	<input type="checkbox"/> 肺がん	<input checked="" type="checkbox"/> 胃がん	
心臓病	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/> 大腸がん	<input type="checkbox"/> 子宮がん	<input type="checkbox"/> 乳がん	<input type="checkbox"/> その他がん	
呼吸器疾患	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		以下の質問は ● の項目のみ回答ください。				
肝臓疾患	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/> 業務歴				
胆のう・胆管疾患	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1 職場での勤務について(選択は1つ)				
透析	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> 常時日勤	<input type="checkbox"/> 常時夜勤	<input type="checkbox"/> (日勤と夜勤の両方あり)		

あり … 問診を記入してください。

● のある項目の  に  をご記入ください。

肺がん・結核検診  キャンセル (スタッフ使用欄)

1 肺がん・結核検診を受診したことがありますか(はい/いいえ)

あり … 受診項目です。問診を記入してください。

胃がん検診(胃透視)  キャンセル (スタッフ使用欄)

1 禁忌事項の確認 下記のいずれかに「はい」がある方はご受診いただけません

昨夜21時以降 4日以上便秘が続いている  はい  いいえ

以前バリウムを飲んでアレルギー症状がでたことがある。(初めて受診される方は「いいえ」にご記入ください)  はい  いいえ

心不全や腎臓疾患(透析)などで水分制限がある  はい  いいえ

# がん検診受診のすすめ

我が国では、がんの罹患数と死亡数が人口の高齢化により増え続け、一生のうち**2人に1人**が「がん」にかかり、年間**3人に1人**が「がん」で亡くなっています。がんと診断された方の生存率は多くの部位で上昇していますので、自覚症状がなくても検診を継続して受診してください。

がんの統計データ	部位別がん死亡数 (2024年データ)					部位別がん罹患数 (2021年データ)						
		1位	2位	3位	4位	5位		1位	2位	3位	4位	5位
	男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓	男性	前立腺	大腸	肺	胃	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳	胃	女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮	

## がん死亡数の変化

人口の高齢化の影響を除いた年齢調整率は、男女ともに胃、大腸、肺がんは減少していますが、女性では子宮頸がん、乳がんは増えています。

## がん検診の「メリット」「デメリット」

がん検診には、がんを早期に見つけて治療すれば、がんの死亡率を下げるという大きなメリットがある一方、デメリットもあります。両方をよく理解したうえで、定期的にごがん検診を受診してください。

### メリット

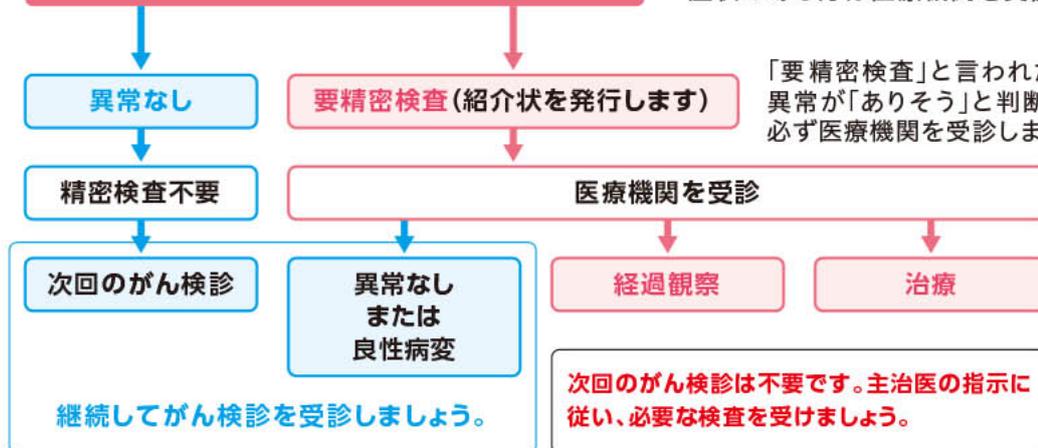
- 最大のメリットは、早期発見、早期治療による救命です。
- 早期治療が可能になることで、身体的・精神的な負担や経済的負担を軽減できます。
- がんになる前段階の病変（ポリープや潰瘍、異形上皮など）が見つかることがあり、必要に応じた治療でがんの発生を未然に防ぐことが可能となります。

### デメリット

- がん検診の判定・診断結果が100%正しいというわけではありません。
- 精密検査にて結果的に「異常なし」である場合もあり不必要な治療や検査をうけてしまうことになる可能性もあります。
- 検査によっては身体に負担がかかってしまうことがあります。

## がん検診受診

がん検診は、症状のない健康な方が対象となります。症状のある方は医療機関を受診することが重要です。



「要精密検査」と言われたら、がんの疑いを含め異常が「ありそう」と判断されたということです。必ず医療機関を受診しましょう。



## 精密検査結果について

医療機関で受けられた精密検査の結果は、国の指針に基づき、がん検診の精度管理のために、健診機関、精密検査実施医療機関で情報を共有させていただきます。なお、市町村実施のがん検診を受診された場合は、がん検診の精密検査結果を委託元である市町村とともに共有させていただきます。ご理解のほどお願いいたします。

紹介状を受け取られた方の詳細はこちら



# がん予防のおはなし

国立がん研究センターをはじめとする研究グループでは、日本人を対象としたこれまでの研究を調べました。そして現時点で科学的に妥当な研究方法で明らかにされている結果をもとに「日本人のためのがん予防法」が提示されました。

## 「日本人のためのがん予防法(5+1)」



### 1. たばこは吸わない。他人のたばこの煙を避ける。

たばこを吸っている人は禁煙をしましょう。吸わない人は他人のたばこの煙を避けましょう。

### 2. 飲酒はひかえる。

飲酒量を減らすほどがんのリスクは低くなります。がん予防のためには、飲酒しないことがベストです。飲まない人、飲めない人は無理に飲まないようにしましょう。

### 3. 食事は偏らずバランスよく摂る。

- ・塩蔵食品、食塩の摂取は最小限にする(食塩は1日あたり男性7.5g、女性6.5g未満)。
- ・野菜や果物不足にならない。
- ・飲食物を熱い状態で摂らない。(少し冷まして食べる)

### 4. 日常生活を活動的に。

たとえば、歩行またはそれと同等以上の強度の身体活動を1日60分行いましょう。また、息がはずみ汗をかく程度の運動は1週間に60分程度行いましょう。

### 5. 体重は適切な範囲内に。

中高年期男性の適正なBMI値(Body Mass Index肥満度)は21~27、中高年期女性では21~25です。この範囲内になるように体重を管理しましょう。 BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)

### 6. 感染症の検査を受ける。

- ・肝炎ウイルス感染の有無を知り、感染している場合は治療を受ける。
- ・ピロリ菌感染の有無を知り、感染している場合は除菌を検討する。
- ・該当する年齢の人は、子宮頸がんワクチンの定期接種を受ける。

# 人びとの健康と環境保全のために 私たちができること

私たちは、皆さまの健康診断や健康づくり、環境調査、啓発活動をとおして  
公衆衛生の向上に貢献しています。

## 巡回健診

地域住民の皆様の健康、企業で働く皆様の健康、学校保健法に基づく健康診断など、  
国の医療制度に基づく健康診査と各種がん検診、その他検診を検診車で各自治体の  
施設や、企業に出向き健診を行います。

### 久留米総合健診センター

〒839-8506  
福岡県久留米市百年公園1-1

お問い合わせ

0942-35-8195



## 施設健診

大きな窓から光が降り注ぐ明るく開放的な空間に、コンシェルジュの配置、ICTを活用した  
効率的な検査誘導など、健康診断の新しい価値を追求し、通常健康診断は  
もちろんのこと、人間ドックにも力を入れています。

### ガーデンシティ健診プラザ

〒810-0041  
福岡市中央区大名2-6-50  
福岡大名ガーデンシティ・タワー5階

お問い合わせ

0800-300-7154



## 環境測定

作業環境測定や飲料水検査の他、水質汚濁、土壌汚染、大気汚染、騒音・振動レベルに  
係わる環境計量証明などの業務を通じて、持続可能な環境づくりに貢献しています。

### 環境科学センター

〒839-0809  
福岡県久留米市東合川6-4-23

お問い合わせ

0942-44-5000



公益財団法人  
ふくおか公衆衛生推進機構  
Fukuoka Public Health Promotion Organization

当機構HP



ふくおか公衆衛生推進機構

検索

<https://www.fphpo.or.jp/>